

東京品川病院内科専門研修施設群

研修期間：3年間（東京品川病院を1年ないし2年，連携施設を1年ないし2年）

1年目の研修は東京品川病院

表1.

卒後3年目	東京品川病院での内科専門研修
卒後4年目	東京品川病院・連携施設での内科専門研修・病歴提出
卒後5年目	東京品川病院・連携施設での内科専門研修

表2. 各研修施設の概要（東京品川病院：平成31年2月現在，剖検数：平成29年度）

	病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
基幹施設	東京品川病院	296	127	7	11	10	9
連携施設	東京労災病院	400	183	7	12	7	12
連携施設	東邦大学医療センター大橋病院	433	215	7	27	15	20
連携施設	日本赤十字社医療センター	708	221	11	26	18	9
連携施設	三楽病院	270	80	6	9	5	2
連携施設	東京高輪病院	251	88	10	6	4	1
連携施設	東京医科歯科大学医学部附属病院	753	210	9	108	67	20
連携施設	東芝林間病院	199	78	6	4	4	2
連携施設	新久喜総合病院	300	36	8	2	3	2

表3. 各内科専門研修施設の内科13領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
東京品川病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○
東京労災病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	△	△	○
東邦大学医療センター大橋病院	△	○	○	△	○	○	○	×	○	△	○	△	△
日本赤十字社医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
三楽病院	○	○	○	△	○	△	○	△	△	△	△	○	○
東京高輪病院	○	○	○	X	○	○	△	X	△	X	X	○	○
東京医科歯科大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
東芝林間病院	○	○	○	○	○	○	△	△	○	△	△	○	△
新久喜総合病院	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	○

（○：研修できる，△：時に経験できる，X：ほとんど経験できない）

* 膠原病領域については，外来症例を含めれば十分経験が可能と考えます。

専門研修施設群の構成要件

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。東京品川病院内科専門研修施設群研修施設は東京都内、埼玉県および神奈川県 of 医療機関から構成されています。

本プログラムは、東京都区南部医療圏の急性期病院である東京品川病院を基幹施設として、同医療圏の東京労災病院、隣接する東京都区中央部医療圏の三楽病院、東京高輪病院、隣接する東京都区西南部医療圏の東邦大学医療センター大橋病院、日本赤十字社医療センター、埼玉県久喜市の新久喜総合病院、神奈川県相模原市の東芝林間病院、更に、東京医科歯科大学医学部附属病院を連携施設とします。

東京品川病院は、東京都区南部医療圏の急性期病院です。そこでの研修は、地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせ、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である東邦大学医療センター大橋病院、日赤医療センター、地域基幹病院である新久喜総合病院、東京労災病院、東京高輪病院、三楽病院、地域医療密着型病院である東芝林間病院で構成しています。履修の状況によっては内科の特定領域について、東京医科歯科大学医学部附属病院に短期間の研修をする場合もあります。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。地域基幹病院では、東京品川病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

専門研修施設（連携施設）の選択

専攻医1年目の秋に、専攻医の希望や将来像、研修達成度とメディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）などを基にして、連携施設と協議の上で、2年目・3年目の研修施設を調整します。なお、研修達成度によっては、サブスペシャリティ領域の専門研修も可能です（個人により異なります）。

専門研修施設群の地理的範囲

東京品川病院内科専門研修施設群は、東京都区南部医療圏、近隣医療圏、埼玉県および神奈川県の医療機関から構成しています。最も距離が離れている新久喜総合病院、東芝林間病院は、東京品川病院から電車を利用して、1時間程度の移動時間であり、移動や連携に支障をきたす可能性は低いです。

1) 専門研修基幹施設

東京品川病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤（嘱託）医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレス、ハラスメントに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内科学会指導医が 11 名、総合内科専門医 9 名が在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会を開催し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・内科合同のカンファレンスを定期的で開催し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・内科系各診療科のカンファレンスを定期的で開催しています。 ・総合内科主催の月 1 回の抄読会を開催し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを開催し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（地域連携症例報告会）を開催し、発表を含め参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・JMECC 受講：内科専攻医は必ず専門研修 1 年もしくは 2 年までに 1 回受講します。
<p>認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 題以上の学会発表を予定しています。内科系学術集会での発表 23 回（日本内科学会地方会 3 演題）。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>新海 正晴</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>中規模病院は患者と医療者の距離が近く、地域に密着したかかりつけ医としての研修が可能です。内科系サブスペシャリティ領域の指導医が揃っており、医療者間の垣根も低く、中規模病院ならではの総合的で幅広い領域を研修することが可能です。総合内科制をとっており、年間を通じて幅広く研修をします</p>

	ので、個々の患者のかかりつけ医としての研修にも適しています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 11名、日本内科学会総合内科専門医 9名、日本循環器学会循環器専門医 6名、日本呼吸器学会専門医 3名、日本消化器病学会専門医 2名、日本血液学会血液専門医 1名、日本腎臓学会指導医 1名、日本肝臓病学会専門医 1名、日本アレルギー学会専門医 1名ほか
外来・入院患者数	外来延患者 9,387名 (1ヶ月平均) 入院患者 8,893名 (1ヶ月平均)
経験できる疾患群	極めて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域のうち、65疾患群について幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根差した医療、病診・病病連携や連携も経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会認定医制度教育関連病院 ・日本呼吸器学会認定施設 ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ・日本消化器内視鏡学会認定指導施設 ・日本がん治療認定医機構認定研修施設 ・日本肝臓学会認定施設 ・日本血液学会専門医制度研修施設 ・日本透析医学会教育関連施設 ・日本腎臓学会専門医制度研修病院 など

2) 専門研修連携施設

東京医科歯科大学医学部附属病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては、本学の就業規則等に従います。 ・メンタルストレスに適切に対処する部門として保健管理センターが設置されています。 ・ハラスメント防止対策委員会が設置され、各部に苦情相談員が置かれています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるよう、女性医師用の休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・学内の保育園（わくわく保育園）が利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内科指導医が 108 名在籍しています。 ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。（2017 年度開催実績 11 回） ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・施設実地調査についてはプログラム管理委員会が対応します。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち、すべての疾患群について研修できます。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東京医科歯科大学大学院では内科系診療科に関連する講座が開設され、附属機関に難治疾患研究所も設置されていて臨床研究が可能です。 ・臨床倫理委員会が設置されています。 ・臨床試験管理センターが設置されています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 13 題の学会発表を行っています。（2016 年度実績） ・内科系学会の後援会等で年間 385 題の学会発表を行っています。（2016 年度実績）

指導責任者	<p>内田 信一</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>東京医科歯科大学内科は、日本有数の初期研修プログラムとシームレスに連携して、毎年 70～100 名の内科後期研修医を受け入れてきました。東京および周辺県の関連病院と連携して、医療の最先端を担う研究志向の内科医から、地域の中核病院で優れた専門診療を行う医師まで幅広い内科医を育成しています。</p> <p>新制度のもとでは、さらに質の高い効率的な内科研修を提供し、広い視野、内科全体に対する幅広い経験と優れた専門性を有する内科医を育成する体制を構築しました。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>認定内科医 108 名</p> <p>総合内科専門医 67 名</p> <p>消化器病学会 23 名</p> <p>肝臓学会 10 名</p> <p>循環器学会 16 名</p> <p>内分泌学会 4 名</p> <p>腎臓学会 11 名</p> <p>糖尿病学会 7 名</p> <p>呼吸器学会 8 名</p> <p>血液学会 9 名</p> <p>神経学会 18 名</p> <p>アレルギー学会 5 名</p> <p>リウマチ学会 12 名</p> <p>感染症学会 0 名</p> <p>老年医学会 5 名</p> <p>救急医学会 0 名</p>
経験できる疾患群	<p>研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医教育施設</p> <p>日本血液学会血液研修施設</p> <p>日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設</p> <p>日本リウマチ学会教育施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本内分泌学会認定教育施設</p> <p>日本甲状腺学会認定専門医施設</p>

	日本高血圧学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設 日本老年医学会認定施設
--	--

東邦大学医療センター大橋病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定を受けている大学病院です。基本理念である”優しい心、親切な心のこもった医療の実践”をモットーに診療を実践しています。 ・ 基幹病院として基幹型の研修プログラムを整備しています。同時に連携病院としても機能します。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境が整備されています。 ・ 東邦大学の就業規則に則り、心身の健康維持の配慮した研修体制を整えております。特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるよう、休憩室、更衣室、仮眠室、当直室が整備されています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医が 39 名在籍しています（下記）。 ・ 内科後期研修プログラム委員会、専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、全人的な診療を提供できるように配慮します。 ・ プログラム基幹施設の開催するカンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付けます。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付けます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、10 分野以上で定常的に専門研修が可能な症例数を確保しています。 ・ 専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 20 体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2014 年度実績 4 演題）をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>前谷 容</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>東邦大学医療センター大橋病院では、東京都目黒区、世田谷区、渋谷区、品川区、大田区とその隣接地域にある連携施設での内科専門研修を通じて東京都区南部・区西南部医療圏の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた医療を実践することができる内科医を育てることを目標としています。また、内科専門医としての基本的臨床能力獲得後はさらに高度な総合内科の generality を獲得する場合や、内科領域 subspecialty 専門医への道を歩む</p>

	<p>場合を想定して、複数のコース別に研修をおこなっています。各領域での臨床研究、学会活動も積極的に行っており、患者から学ぶという姿勢を基本とし、科学的な根拠に基づいた（evidence based medicine の精神）の上に診断、治療を行います。最新の知識、技能を常にアップデートし、生涯を通して学び続ける習慣を獲得することが可能となります。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 39 名、日本内科学会総合内科専門医 15 名、日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本肝臓学会肝臓専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名、日本腎臓学会腎臓専門医 3 名、日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会専門医（内科）1 名、日本リウマチ学会専門医 3 名ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来新患患者数 34359 人 入院患者実数 12222 人</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域のうち 総合内科 I・II・III、消化器、循環器、代謝、膠原病、呼吸器、神経、アレルギー、感染症、救急の 10 領域について症例を幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に循環器領域、消化器領域の加療技術・技能は高いレベルの研鑽を積むことができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>地域医療における機関大学病院として、高齢社会に対応した医療、病診・病病連携などを経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>膠原病リウマチ科 【日本内科学会】 認定医制度教育病院 【日本リウマチ学会】 認定教育施設 【日本整形外科学会】 認定医研修施設・専門医研修施設 【日本皮膚科学会】 専門医研修施設 救急集中治療科 【日本救急医学会】 専門医訓練施設 循環器内科 【日本内科学会】 認定医制度教育病院 【日本循環器学会】 循環器専門医研修施設 【日本超音波医学会】 認定超音波専門医研修施設 【日本心血管インターベンション治療学会】 専門医制度認定教育施設 【日本不整脈学会】 認定不整脈専門医研修施設・植込み型除細動器認定施設・両室ペーシング機能付き植込み型除細動器認定施設・両室ペースメーカー認定施設 消化器内科 【日本内科学会】 認定医制度教育病院</p>

【日本消化器内視鏡学会】 認定指導施設

【日本大腸肛門病学会】 専門医修練施設

【日本消化器病学会】 認定施設

呼吸器内科

【日本内科学会】 認定医制度教育病院

【日本呼吸器学会】 認定施設

【日本気管支学会】 認定施設

【日本アレルギー学会】 専門医教育研修施設

腎臓内科

【日本内科学会】 認定医制度教育病院

【日本透析医学会】 専門医制度認定施設

【日本腎臓学会】 研修施設

神経内科

【日本内科学会】 認定医制度教育病院

【日本神経学会】 教育施設

糖尿病・代謝内科

【日本内科学会】 認定医制度教育病院

【日本糖尿病学会】 認定教育施設

【日本動脈硬化学会】 専門医認定教育施設

三楽 病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・図書室とインターネット環境があります。 ・三楽病院レジデントとして労務環境が保障されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室・シャワー室・当直室が整備されています。 ・ハラスメント委員会が病院内に整備されています。 ・民間の保育所が病院近傍にあります。
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が9名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携をはかります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2014年度実績 医療倫理 0回 医療安全 2回 感染対策 2回）し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的開催（2015年度実績 2回）し専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器科・総合内科・呼吸器科・で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。また、他分野でも、専門研修が可能な症例数のうちの多くの割合の症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会で、定期的な学会発表を目標としています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>和田 友則 (内科専攻医へのメッセージ)</p> <p>三楽病院は神田駿河台の地で設立 83 年の伝統を有する病院です。千代田区の一般病院として診療を行う一方、近隣の大学病院や地域医療機関とも密な連携を常に保ちながら、地域医療の担い手として診療の充実をはかっています。研修では主に日常遭遇することが多い一般的な内科疾患を経験しますが、消化器、循環器、糖尿病・代謝科の各科では専門的な研修を受けることも可能です。病院内各科との連携もスムーズであり、効率の良い診療が行えます。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 9 名、日本内科学会総合内科専門医 5 名、日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本消化器内視鏡学会内視鏡専門医 6 名、日本肝臓学会肝臓専門医 2 名 日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本呼吸学会呼吸器専門医 1 名、日本腎臓学会腎臓専門医 1 名、日本心血管インターベンション治療学会認定医 1 名 ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 17978 名 (1 か月平均) 入院患者 5227 名 (1 か月平均)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>研修手帳にある 13 領域 70 疾患群のうち、主に一般病院で遭遇することが多</p>

	い疾患を幅広く経験できます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験できます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期、慢性期を問わず、地域に根ざした医療・病診連携、また緩和医療、終末期医療等についても経験ができます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育関連病院</p> <p>日本消化器病学会認定医制度施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会専門医指導施設</p> <p>日本肝臓学会認定施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本高血圧学会専門医認定施設</p> <p>日本血液学会認定医に関わる研修施設</p> <p>日本病態栄養学会 栄養管理・NST 実施施設</p>

東京高輪病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です ・独立行政法人地域医療機能推進機構任期付職員として労務環境が保障されています。 ・研修に必要なインターネット環境と電子図書の利用が可能です。 ・メンタルヘルスに適切に対処する部署（総務企画課）とハラスメントに対処する委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるよう女性専用の更衣室と当直室が整備されています。
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が6名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設で設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・院内で医療倫理、医療安全、感染症対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付けます。そのための時間的余裕も与えます。 ・医療安全のe-learningを導入しており、全職員に受講を義務付けています。 ・CPCを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕も与えます。 ・地域参加型のカンファレンスが各診療科を中心に開催されているので、このカンファレンスに積極的に参加することを薦め、そのための時間的余裕も与えます。
<p>認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、代謝内科、呼吸器内科、感染症内科および救急の分野で専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医師主導型の臨床研究および治験を積極的に支援しています。 ・臨床研究倫理審査委員会および治験審査委員会を定期的に行い、 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に積極的に演題を出して発表するよう薦め支援しています。
<p>指導責任者</p>	<p>山本 雅人</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院の診療地域は羽田空港からも近く、新幹線も通る東京の玄関口である品川駅周辺であり、渡航者や外国人が多いという特色があります。このような特色ある地域で、輸入感染症診療、旅行医学、外国人診療という特徴のある地域医療を経験することができます。救急受入れも多く、プライマリケアのよい修練となるでしょう。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医1名、日本内科学会総合内科専門医4名、 日本消化器病学会消化器専門医4名、日本循環器学会循環器専門医2名、 日本糖尿病学会専門医1名、日本腎臓病学会専門医1名、</p>

	日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、 日本感染症学会専門医 1 名、日本肝臓学会専門医 3 名、 日本認知症学会専門医 1 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 595.1 名 入院患者 202.6 名 ※H27 年度 1 日平均
経験できる疾患群	内科全般（血液疾患とリウマチ疾患は診断まで）ほとんどのコモンディージーズ が経験できます。 感染症内科では輸入感感染症や HIV
経験できる技術・技 能	内科基本手技全般を経験できます。 臨床微生物学、グラム染色（感染症内科） 消化管内視鏡（消化器内科） 心臓カテーテル検査（循環器内科） など
経験できる地域医 療・診療連携	内科疾患（消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、腎臓内科、感染症内科が中 心）全般 救急外来プライマリケア 外国人診療、トラベルクリニック、輸入感染症、HIV
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連施設 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本アレルギー学会準教育認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本感染症学会専門医制度認定施設

東京労災病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・独立行政法人労働者健康安全機構常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・東京労災病院ハラスメント防止規程が整備されており、相談員を配置しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 12 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015 年度実績 医療安全 3 回、感染対策 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。なお、28 年度から医療倫理に関する講習会を開催しており、29 年度以降も定期開催を予定しています。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）に定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2015 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 内科系医師合同セミナー 2 回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 12 体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 6 演題）をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催（2015 年度実績 8 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的受託研究審査会を開催（2015 年度実績 6 回）しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
<p>指導責任者</p>	<p>高櫻 龍也</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は大田区南部を医療圏とし、急性期医療を担う地域の中核病院です。また、地域医療支援病院として近隣の病・医院との連携を重視しています。多くの入院・外来患者に対応しているため、内科各分野にわたって豊富な症例</p>

	を経験することが可能です。さらに、内科各領域に多数の専門医、指導医を擁しており、きめ細かな指導が受けられます。コメディカルとの連携を密にしたチーム医療を実践し、医療安全に重きを置いた、患者本位の医療サービスが提供できる医師を育てます。中規模病院のメリットを生かし、一人一人の専攻医の存在を病院内に広く周知して、病院全体で質の高い内科専門医の育成を目的とします。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 6名、日本内科学会総合内科専門医 7名 日本消化器病学会消化器専門医 7名、日本循環器学会循環器専門医 3名、 日本内分泌学会 1名、日本腎臓学会 1名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 4名、 日本神経学会専門医 3名、日本感染症学会専門医 1名、 日本肝臓学会専門医 3名、ほか
外来・入院患者数	外来患者数 1,040.3名 (1日平均) 入院患者数 333.0名 (1日平均)
経験できる疾患群	極めて稀な疾患を除いて、研修手帳にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験できます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に消化器、循環器および呼吸器領域においては、より高度な専門技術も習得することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療のみならず、超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療や病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本消化器外科学会修練施設 日本肝臓学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本神経学会教育関連施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本病態栄養学会専門医研修認定施設 日本病態栄養学会栄養管理・NST実施施設 日本静脈経腸栄養学会実地修練認定教育施設 日本静脈経腸栄養学会 NST稼働施設

	日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設 日本医学放射線学会修練施設 日本救急医学会専門医指定施設 日本麻酔科学会認定病院 日本病理学会研修認定施設B など
--	---

日本赤十字社医療センター

<p>認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・日本赤十字社常勤嘱託医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が日本赤十字社医療センター内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように更衣室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・敷地内に託児所があり，利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 26 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会によって，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会（2018 年度予定）と臨床研修推進室を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2015 年度実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2015 年度実績 9 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（渋谷区医師会日赤合同カンファレンス，循環器科渋谷区パス大会，循環器科渋谷区公開クルズ，東京循環器病研究会，城南呼吸器疾患研究会，城南気道疾患研究会，城南間質性肺炎研究会，渋谷目黒世田ヶ谷糖尿病カンファレンス，城南消化器検討会，東京肝癌局所治療研究会，都内肝臓臨床検討会，東京神奈川劇症肝炎研究会，消化器医療連携研究会，臨床に役立つ漢方勉強会，など）を定期的で開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2015 年度開催実績 1 回：受講者 12 名）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修推進室が対応します。
<p>認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（実績：2014 年度 25 体，2015 年度 25 体/うち内科 9 体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し，定期的で開催（2015 年度実績 11 回）しています。 ・治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2015 年度実績 11 回）

	<p>しています。</p> <p>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 7 演題）をしています。</p>
指導責任者	<p>池ノ内浩</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>日本赤十字社医療センターは日本赤十字社直属の総合病院であり、救急医療、がん治療、周産期を三本柱とする東京中心部の急性期病院です。救命救急センターにおける三次救急、二次救急には研修医の先生に積極的に参加していただいております。当院は癌拠点病院であり、外科治療はもちろん、サイバーナイフ治療、化学治療、そして緩和病棟と一貫した体制がとられ、各科が協力して、とくに内科と外科は密接に関係しながら治療にあたっています。当院は都内有数の周産期病院であり、年間 3000 件を超える出産があり、妊婦や婦人科に関連した疾患も内科において経験することが可能です。その他ほとんどすべての診療科を有し、多種多彩な疾患、症例を経験することが可能となっています。スタッフは各分野のエキスパートであり、指導体制も確立しております。症例報告、各種学会発表、臨床研究、論文作成も積極的に行われております。これまで、当院で研修された数多くの諸先輩医師が各分野における日本の医療を支える立場で活躍しておられます。当院出身の先輩医師の皆さんは当院の出身であることに誇りを持ち、その経験を生かしつつ最前線で医療に携わっております。また、さらに経験を積んだうえで当院に戻られる先生方も多数おられます。新しい内科専門医制度の採用により、実際の症例件数や実技の修達度も明らかとなり、これまでより一層研修の質を向上させてくれることと思います。またさらには関連施設での一定期間の研修を組み入れることにより、一つの施設にとらわれない広い視野を持った医師の育成にも良い影響があると考えられます。当院のプログラムは、十分な症例経験、実技経験、地域医療や関連施設での研修を通して、これまで以上に日本の医療に貢献できる医師の育成に寄与すべく作成されております。少しでも多くの専攻医のみなさんが、当院のプログラムに参加されることを期待しております。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 26 名，日本内科学会総合内科専門医 18 名</p> <p>日本消化器病学会消化器病専門医 7 名，日本肝臓学会肝臓専門医 3 名</p> <p>日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名，日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名，</p> <p>日本腎臓学会腎臓専門医 4 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名，</p> <p>日本血液学会血液専門医 5 名，日本神経学会神経内科専門医 2 名，</p> <p>日本循環器学会循環器専門医 4 名，日本リウマチ学会リウマチ専門医 2 名，</p> <p>日本救急医学会救急科専門医 5 名 など</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 6,508 名 (内科 1 ヶ月平均) 入院患者 14,968 名 (内科 1 ヶ月平均)</p>
経験できる疾患群	<p>研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>

<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会教育関連施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本緩和医療学会認定研修施設 など</p>

東芝林間病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が4名在籍しています（下記）。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う（2015年度実績 医療倫理1回、医療安全2回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型の症例検討会（2015年度実績2回）を定期的に行っています。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、腎臓、代謝、内分泌の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・倫理委員会を設置し、不定期に行う（2015年度実績3回）しています。 ・治験審査委員会を設置し、定期的に行う（2015年度実績12回）しています。 ・専攻医が国内の学会に参加・発表する機会があります。
指導責任者	岩崎裕明 【内科専攻医へのメッセージ】 当院における内分泌・代謝疾患の入院数は、2014年度；216例、2015年度；352例。特に専門性によらず全ての内科医に対応が求められる糖尿病診療に関しては、十分な症例数を経験する中で、診断、精査（合併症の評価）、治療、患者教育、療養指導についての理解を深めることが期待出来ます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 4名、日本腎臓学会認定指導医2名、日本透析医学会透析指導医2名、専門医1名、日本病態栄養学会専門医1名、日本糖尿病協会療養指導医1名、日本内分泌学会認定内分泌代謝科指導医1名、日本糖尿病学会研修指導医1名、内科臨床研修指導医4名、日本高血圧学会高血圧専門医1名、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医4名、日本消化器病学会消化器病専門医3名、日本循環器学会循環器専門医5名、日本不整脈学会日本心電学会認定不整脈専門医1名、日本心血管インターベンション学会指導医1名
外来・入院患者数	外来患者 14,056名（1ヶ月平均） 入院患者 556名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した糖尿病を中心とする代謝疾患や内分泌疾患（甲状腺・副甲状腺・副腎疾患や内分泌性高血圧など）の診断や治療について、幅広く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な代謝・内分泌領域における技術・技能の習得に加えて、ことに糖尿病に関しては、糖尿病教育入院や患者会（桜友会）行事、外来糖尿病教室等への参加を通じて、看護師・薬剤師・管理栄養士・臨床検査技師・理学療法士（糖尿病認定看護師；1名、糖尿病療養

	指導士；15名を含む)との連携～チーム医療を経験することが出来ます。
経験できる地域医療・診療連携	代謝領域の診療に関連した地域医療・診療連携を経験出来ます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器病学会認定指導施設 日本循環器専門医研修施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設

新久喜総合病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤（嘱託）医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレス、ハラスメントに適切に対処する部署があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内科学会指導医が 2 名、総合内科専門医 3 名が在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会を開催し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・内科合同のカンファレンスを定期的で開催し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・内科系各診療科のカンファレンスを定期的で開催しています。 ・総合内科主催の月 1 回の抄読会を開催し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを開催し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（地域連携症例報告会）を開催し、発表を含め参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・JMECC 受講：内科専攻医は必ず専門研修 1 年もしくは 2 年までに 1 回受講します。
<p>認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 題以上の学会発表を予定しています。内科系学術集会での発表 11 回。（平成 30 年度） （日本内科学会地方会 3 演題）。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>蒲池 良平</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>新久喜総合病院は地域に根ざした医療に取り組んでいます。当院の医療圏近辺では住民の医療ニーズに対して医師の数が少なく、これからさらに症例経験を積んでいきたいと考えている医師にとって、診療科内の活発なコミュニケーションと豊富な症例から、非常に良い成長機会があると考えています。各科連携が取れやすい中規模の病院の特性を活かし、垣根無く、幅広く、効率的な研修が行えます。</p>

指導医数 (常勤医)	日本内科学会認定内科医 4 名 総合内科専門医 3 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名 日本老年医学会認定指導医 1 名 日本腎臓学会腎臓専門医・指導医 1 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名 日本高血圧学会専門医・指導医 1 名 日本内分泌学会内分泌代謝専門医・指導医 1 名 日本救急医学会専門医・指導医 1 名
外来・入院患者数	外来延患者 105, 691 名 入院患者 6, 403 名
経験できる疾患群	極めて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域のうち、65 疾患群について幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根差した医療、病診・病病連携や連携も経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定教育関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本救急医学会専門医指定施設

東京品川病院内科専門研修プログラム管理委員会

1. 東京品川病院内科専門研修プログラム管理委員会

東京品川病院

新海 正晴	(委員長、プログラム統括責任者、 総合内科・感染症・アレルギー分野責任者)
佐々木 修	(プログラム管理者、基幹施設研修委員会委員長、 総合内科・神経内科・内分泌分野責任者)
若杉 恵介	(血液分野責任者・感染症・膠原病分野副責任者)
石井 直樹	(消化器分野責任者)
篠田 雅宏	(呼吸器分野責任者)
高木 拓郎	(循環器・救急分野責任者)
李 哲雄	(腎臓分野責任者)
森川 美羽	(緩和・アレルギー分野)
神谷 雄二	(内分泌・糖尿病分野)
太田 真一郎	(総合内科・呼吸器・アレルギー分野副責任者)
松田 聡	(リハビリテーション分野責任者)
矢野 公章	(事務局代表、臨床研修事務担当)
前田 陽介	(臨床研修事務担当)

連携施設

東邦大学医療センター大橋病院：常喜 信彦（連携施設研修委員会委員長）
新久喜総合病院：蒲池 良平（連携施設研修委員会委員長）
日本赤十字社医療センター：中田 良（連携施設研修委員会委員長）
東京労災病院：児島 辰也（連携施設研修委員会委員長）
東京高輪病院：木村 健二郎（連携施設研修委員会委員長）
三楽病院：和田 友則（連携施設研修委員会委員長）
東芝林間病院：岩崎 裕明（連携施設研修委員会委員長）
東京医科歯科大学医学部附属病院：市川 理子（連携施設研修委員会委員長）

2. オブザーバー

内科専攻医代表1 廣内 尚智
内科専攻医代表2 北野 奨真

別表 各年次到達目標

	内容	専攻医3年修了時	専攻医3年修了時	専攻医2年修了時	専攻医1年修了時	※5 病歴要約提出数
		カリキュラムに示す疾患群	修了要件	経験目標	経験目標	
分野	総合内科Ⅰ(一般)	1	1 ^{※2}	1		2
	総合内科Ⅱ(高齢者)	1	1 ^{※2}	1		
	総合内科Ⅲ(腫瘍)	1	1 ^{※2}	1		
	消化器	9	5以上 ^{※1※2}	5以上 ^{※1}		3 ^{※1}
	循環器	10	5以上 ^{※2}	5以上		3
	内分泌	4	2以上 ^{※2}	2以上		3 ^{※4}
	代謝	5	3以上 ^{※2}	3以上		
	腎臓	7	4以上 ^{※2}	4以上		2
	呼吸器	8	4以上 ^{※2}	4以上		3
	血液	3	2以上 ^{※2}	2以上		2
	神経	9	5以上 ^{※2}	5以上		2
	アレルギー	2	1以上 ^{※2}	1以上		1
	膠原病	2	1以上 ^{※2}	1以上		1
	感染症	4	2以上 ^{※2}	2以上		2
	救急	4	4 ^{※2}	4		2
外科紹介症例					2	
剖検症例					1	
合計 ^{※5}	70疾患群	56疾患群 (任意選択含む)	45疾患群 (任意選択含む)	20疾患群	29症例 (外来は最大7) ^{※3}	
症例数 ^{※5}	200以上 (外来は最大20)	160以上 (外来は最大16)	120以上	60以上		

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。

※2 修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが、他に異なる 15 疾患群の経験を加えて、合計 56 疾患群以上の経験とする。

※3 外来症例による病歴要約の提出を 7 例まで認める。(全て異なる疾患群での提出が必要)

※4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する。

例) 「内分泌」2 例+「代謝」1 例, 「内分泌」1 例+「代謝」2 例

※5 初期臨床研修時の症例は、例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。

サブスペシャリティ責任者 高木 拓郎 (例)

指導医 松本 誉史 (例)

※主として内科系5床 サブスペシャリティ分野5床 計10名の患者を受持つ。

東京品川病院内科専門研修 週間スケジュール (循環器内科専攻医 例)

	月	火	水	木	金	土	日
	救急カンファレンス	救急カンファレンス	救急カンファレンス	救急カンファレンス	救急カンファレンス		
午前	入院患者診療 内科新患外来 【duty】	新患外来 救急当番 【duty】	入院患者診療 <u>心カテ</u>	入院患者診療 全身管理 (HCU) 麻酔【duty】	総合診療勉強会 <u>心カテ</u>		
午後	入院患者診療 サブスペシャリティ外来 (循環器)	入院患者診療 救急当番 【duty】	入院患者診療 <u>心カテ</u>	入院患者診療 内科一般再診 【duty】	午後外来 <u>心カテ</u>	担当患者の病態に応じた診療/オンコール/日当直/講習会/学会発表など	担当患者の病態に応じた診療/オンコール/日当直/講習会/学会発表など
		腎臓内科カンファレンス	血液内科カンファレンス				
	循環器内科カンファレンス	消化器内視鏡カンファレンス・臨床病理カンファレンス	代謝内分泌内科カンファレンス	治験開発研究センターカンファレンス			
内科合同カンファレンス 第4火曜日7病院 合同救急カンファレンス	第2水曜CPC	呼吸器内科カンファレンス					
担当患者の病態に応じた診療/オンコール/日当直/講習会/学会発表など							

東京品川病院内科専門研修プログラム4. 専門知識・専門技能の習得計画 に従い、内科専門研修を実践します。

- ・ 上記はあくまでも例：概略です。
- ・ 内科および各診療科 (Subspecialty) のバランスにより、担当する業務の曜日、時間帯は調整・変更されます。
- ・ 入院患者診療には、内科と各診療科 (Subspecialty) の入院患者の診療を含みます。
- ・ 新患外来・救急当番・午後外来・日当直は当番として担当します。
- ・ 入院症例は主治医制をとっており、日当直医で対応するほか、オンコールを主治医に行う場合があります。
- ・ 地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などは各々の開催日に参加します。

